

認知症の診断について

記憶や空間認知を検査

高齢化が進むにつれ、認知症患者さんの数も増えているよう。もの忘れと認知症の違いや診断について、済生会今治病院で脳神経系の疾患を主に診察する、医療 福祉センター長でもある野元正弘医師が教えてくれました。



▲野元正弘医師

トは近似記憶や空間認知を検査します。

よく用いられる簡便

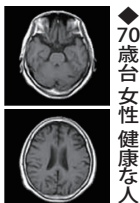
な方法にMMSE（ミニメンタルテスト）と長谷川式簡易認知症評価スケールがあります。近似記憶の評価が重要で、例えば、電車を覚えてもらい、その後100、7の引き算を繰り返してもらった後に、再度、電車を思い出すという検査を行います。認知症にはアルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型があり、最も多いアルツハイマー型では脳血流検査（シンチグラム）で側頭頭頂部、後部帯状回付近の血流低下がみられます。

物忘れは歳をとると誰にも起こりますが、脳細胞が壊れて進行性に物忘れが強くなる時は認知症です。認知症か、加齢に伴う物忘れかを診断するには、記憶力テスト、脳血流の測定、他疾患の除外を行います。記憶力テストは、再度、電車を思い出すという検査を行います。認知症では近似記憶が低下して、すぐ前のことを思い出せなくなります。認知症にはアルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型があり、最も多いアルツハイマー型では脳血流検査（シンチグラム）で側頭頭頂部、後部帯状回付近の血流低下がみられます。

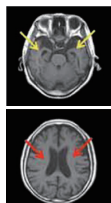
また、認知症が進行すると海馬の萎縮が起これ、MRI検査で評

価できません。海馬はギリシア神話にでくくる動物です。認知症の症状には記憶力の低下と周辺症状があり、易性怒性、怒りっぽい、物

取られ妄想が起これやすくなります。認知症を早期に診断して、症状に応じた治療・療養を行い、ご本人とご家族、介護の方がよりよい生活を送れるようにすることが大事です。



◆70歳台女性 健康な人
アルツハイマー型認知症



▶健康な人と認知症の方の脳の画像

社会福祉法人
恩賜財団 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号 <http://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

